

北海道土を考える会 十勝エリア 土壌断面調査勉強会を開催しました。

2022年11月4日

北海道土を考える会は、10月20日(木)、21日(金)に十勝エリアでの土壌断面調査勉強会を実施いたしました。現地で調査していただいた農研機構 農業環境変動部門(農環研)の前島勇治氏よりのコメントと合わせてご報告させていただきます。



左から武智様、農環研の前島氏、森下氏

北海道中川郡池田町川合 武智農場 (エン麦、前作:麦)

十勝川と利別川の間の中州(氾濫平野)に広がる沖積土です。深さ60cmに及ぶ黒褐色の作土と灰色の下層土の境界がはっきりしているのは、プラウとプラソイラの併用により作土層が深くなった証拠です。以前は水田として利用され、作土深は30cm内外でその直下には鉄さびの多い灰色の土層が続いていたと考えられますが、暗渠施工による排水改良、深耕による作土深の拡大および緑肥栽培による有機物の供給により土層の構成が大きく変化しています。なお、90cm以深にはヨシなどの植物遺体(泥炭片)が多く含まれ、かつてこの辺りは湿地であったことがわかります。

